

「ペットボトルキャップから見える世界～ワクチンを届けよう～」

三重大学教育学部附属小学校 今井 啓介

概要

本校の環境委員会（４・５・６年生）では、ペットボトルキャップを回収し、その回収したものをもとにワクチンにかえている。本年度も、例年と同じようにペットボトルキャップの回収を行い、ワクチンにかえていく取り組みを行っていく。しかし子どもたちの中には、どうしてそのようなことをしているのかということについて、知らない子どもたちが多い現状がある。そこで、本校で取り組んでいることをより多くの子どもたちに知ってもらい、子どもたちの意識が環境問題とワクチンというものにむいていくようにしていく。

環境委員会の実践

【環境委員会の仕事】

・月～金まで当番を決めて、集まってくるペットボトルキャップを専用の袋に詰め込む作業を行う。このとき、子どもたちは、ペットボトルキャップについているシールや汚れを取りながら、仕分け作業を行う。



<ペットボトルキャップの仕分け方法>



ペットボトルキャップについているシールが付いているものと付いていないものに分け、付いているシールを剥がしておく。



ペットボトルキャップが汚れているものは洗ってきれいにする。

- ・ 集まったペットボトルキャップを専用の袋に入れ、企業に届ける。



- ・ 環境委員会としての取り組みと全校児童にむけてのお願いを全校集会で発表し、今後もたくさんのペットボトルキャップを集め、世界にワクチンを届けようというメッセージを発信させる。

○ 環境委員会から全校児童に向けてのプレゼンの内容



まず初めに、委員会での活動の様子と集められたペットボトルキャップが企業に運ばれるまでの様子をスライドで説明した。そして、企業に集められたペットボトルキャップがどのような流れでワクチンが届いていくのかということについて説明した。

その後、全校の子どもたちに興味をもってもらうために、以下のようなクイズを作成した。

1人分のワクチンを作るのに、なんこのペットボトルキャップがいるでしょうか。

1. 260こ
2. 560こ
3. 860こ

今まで附属小学校で集められたペットボトルキャップの数は何個ですか。

1. 3,167こ
2. 31,676こ
3. 316,760こ

子どもたちは、1人分のワクチンを作るのに、860個も必要だということを知ると、自分が予想していたよりも多い数に驚きの声が上がった。また、今まで学校で集めたペットボトルキャップが316,760個もあったことを知ると、さらに驚きの声が上がった。

そこで、子どもたちが集めた316,760個をゴミとして出した時に、二酸化炭素が2371.6kgが排出されることや376.5人分のワクチンとして寄付されたことを伝え、これからも引き続き、この活動の重要性とお願いをしていった。

316,760こ
↓
CO₂ 2371.6kg

316,760こ
↓
376.5人

終わりに

今年度の取り組みを一年間通して行ったことで、次のような子どもの姿が見られた。

- 全校集会での発表以降、ペットボトルキャップをもってきてくれる子どもの数が増え、今まで以上に多くのペットボトルキャップを集めることができた。
- 環境委員会の子どもたちが、今回の活動を通して、より多くの人にペットボトルキャップをもってきてほしいという強い願いをもち、朝の会や帰りの会での積極的な呼びかけが行われるようになった。
- ペットボトルキャップ以外にも環境問題に興味をもち、ポスターや学校環境の整備を進んで取り組む姿が見られた。

これらの子どもの姿から、来年度も継続しいてペットボトルキャップの回収を行い、ワクチンだけでなく、他の使い道はないのかということについて、より深く子どもたちと考えていきたい。